

## 千代田区 ふるさと文化の散歩道へのお誘い (駿河台コース+北の丸/外堀コースの一部)

出発地点: JR総武線 秋葉原駅 昭和通り改札

出発日時: 令和7年3月24日(月)12時00分

(昼食は済ませてきてください)

予備日(3月25日(火))

行程: 約3時間半

(実質2時間半程度のウォーキング)

到着地点: JR中央線 飯田橋駅

(自由解散)

- 参加希望者は各地区常任幹事または田辺まで(飛び込み参加もOKです。定刻までお待ちします)
- 当日の実施が微妙な場合は9時までに田辺から連絡いたします
- 各自準備品 保険証、常備薬、飲み物 etc.



## 柳原土手跡と和泉橋



柳原堤  
Yanagihara Bank in Edo period  
『江戸名所図会』1834年(天保5年)  
千代田区教育委員会蔵

- 柳原土手は、筋違門から浅草門までの約1.1キロメートルにわたり、江戸城外堀(現在の神田川)南岸に築かれていた土手です。昔は町屋が土手の南側下まで建ち並び、人は土手の上を通行していました。土手下には柳森稲荷(現在の柳森神社)や、古着や古道具を扱う葦笥張(よしずばり)の床店(とこみせ)が並び、繁昌していたといわれます。
- 1873年(明治6年)に土手は崩れましたが、岩本町周辺には古着屋が集中し、また軍服を扱う羅紗(らしや)問屋が神田須田町にできたことで、岩本町・神田須田町・東神田の一带は、現在に至るまで衣料の町として発展してきました。
- 和泉橋は、江戸城外堀(現在の神田川)にかかる橋の一つです。伊勢津藩(現在の三重県)の藤堂和泉守(とうどういずみのかみ)の上屋敷前に向かう通りに架かることが橋名の由来です。1892年(明治25年)に鉄橋となり、関東大震災後の1927年(昭和2年)には帝都復興事業の一環で拡張され、東京を南北に走る防火帯の役割も兼ねた場所でした。

千代田区文化財サイトより

## お玉が池跡とお玉が池種痘所跡



お玉が池のほとりに、安政5年(一八五八)伊藤玄朴や大槻俊斎ら江戸の蘭学者たち八二名が資金を出し合つて「種痘所」をつくりました。

種痘所は、痘瘡の予防接種の普及を図るための集会所で、勘定奉行の川路聖謨の屋敷にあつたといわれています。

ただし、半年後に焼失し、下谷和泉橋通り(現・神田和泉町)に移つてしまいました。

しかし、この地で生まれた蘭学者たちの精神は生き続け、種痘所は名前を変えながら東京大学医学部へと発展しました。



## 大安楽寺と江戸伝馬町処刑場跡



## 吉田松陰終焉の地の碑



- 吉田松陰先生は天保元年(西暦一八三〇年)八月四日長州萩の東松本村で村家の二男として生まれた。幼い頃に吉田家をついた。成人しての名を置次郎といふ。吉田家は代々山鹿流兵学師範の家であったので、早くから山鹿流兵学その他の学問を修め、その道究めて、子弟の教育につとめた偉人である。
- 安政元年三月節の佐久間象山のすゝめで海外渡航を計画し、下田から米艦に便乗しようとして失敗、下田の獄につながれたが伝馬町獄送りとなって途中、高輪泉宿寺の前で詠んだのが有名な歌の歌である。行くすればかなもの未知ながらやむにやまれぬ大和魂!同年九月まで約六ヶ月間伝馬町獄に留置されていたが、国元萩に謹慎の身となって帰って後の松下村塾での教育が最も偉大な事業である。
- 薫陶を受けた中から有識者六名、贈位者十七名、有位者十四名等多くの著名の士が出て中でも伊藤博文、山県有朋、木戸孝允等は、明治維新の大業に奮功のあった人物である。それが国歴史の上での三大変革といえれば大化の改新、鎌倉幕府の創立、明治維新の三つであるが、その明治維新にこれら松下村塾生の動きが大きな力となったことを深く考えたいのである。
- 後松陰は安政の大獄に連座して再び伝馬町獄に入牢となった。安政六年七月九日江戸の長州藩邸から初めて評定所に召出されたが、その時「身はたむしめたる時は今とて武蔵野いさしまくも鳴くつわ虫かみ」と決心を歌にのべている。しかし幕府の役人を動かすことが出来ず、その後の三回の取調べで死刑を覚悟した十月二十二日に父、叔父、兄へ宛てて永訣の書を送っているがその中にあるのが「親思ふ心にまさる親こころけふのおとづれ何と聞くらん」の一首である。
- また処刑の時の近づくのを知って十月廿五日より廿六日の黄昏までかいて書きあげたのが留魂録でその冒頭に「身はたとひ武さしの野辺に朽ちぬともども置かまし大和魂!十月念五日 二十一回猛士」と記してある。松陰はこれを回囚で八丈島に運島になった高崎吉五郎に托したが、二十一年後当時神奈川県令で養生であった野村胡堂に手渡したものが現在残っている留魂録である。
- それによって当時の法廷の様態、訊問応答の次第、獄中の志士の消息等がわかり、自己の心境と塾生の行くべき道を示したもので崇高な松陰魂の指南書ともいえるものである。安政六年十月二十七日は処刑の日であった。揚屋を出る松陰は次の詩を高らかに朗吟して回囚の士に託を告げたのである。
- 「今吾れ国の為に死す 死して君親に背かず 察々たり天地の事 鑑照明神に在り 次いで刑場では「身はたとひ」の歌を朗誦して従容として刑についた。
- 行年三十歳 明治二年二月十一日正四位を贈位され昭和十四年六月十思小学校家庭に留魂碑が建設された。

十思公園 江戸三線史跡より十思公園 江戸三線史跡より

## 玄武館跡



- 玄武館は、北辰一刀流開祖の千葉周作が開いた北辰一刀流の道場です。
- 1822年(文政5年)日本橋品川町に創立された玄武館は、その後神田お玉が池(現在地)に移転します。
- 練兵館・士学館と並び、幕末の江戸三大道場の一つに数えられました。

千代田区文化財サイトより

## 神田青果市場発祥の地



- 神田須田町1丁目には江戸時代から大正時代にかけて 青物市場もありました。
- 須田町交差点から地下鉄淡路町駅に向かう途中に「神田青果市場発祥の地」に碑があります。
- 万世橋が架かる河岸のあたりにはかつて荷上場が設けられ鉄道が無かった時代の物流の拠点でした。
- 青果市場で商われる野菜や果物などは神田川を船で運ばれていたのです。  
千代田区 ふるさと文化の散歩道より

## ニコライ堂



- 日本ハリストス正教会教団の復活大聖堂 重要文化財です ニコライ堂という通称のほうが通っています
- 明治のはじめは ロシア公使館の付属の土地でした そこにニコライ司祭の企画でギリシャ正教会の教会を造ったものです  
千代田区 ふるさと文化の散歩道より

## 大久保彦左衛門屋敷跡





## お茶の水由来



- 慶長の昔、この邊り神田山の麓に高林寺という禅寺があった。ある時寺の庭より良い水がわき出るので將軍秀忠公に差し上げたところお茶に用いられて大変良い水だとお褒めの言葉を戴いた。
- それから毎日この水を差し上げる様になり、この寺をお茶の水高林寺と呼ばれ、この邊りをお茶の水と云うようになった。
- 其の後、茗溪又小赤壁と稱して文人墨客が風流を楽しむ景勝の地となった。
- 時代の変遷と共に失われ行くその風景を惜しみ心ある人達がこの碑を建てた。

千代田区文化剤サイトより

## 太田姫神社(右は縁起)



太田姫稲荷神社は、極めて豊かな靈験伝承と、古い由緒をもつ神社であります。「駿河台文化史」(昭和十年神田史跡研究会)によると当神社の縁起は九世紀に始まります。詩才を自楽天に比されるほどの詩人參議小野篁(おののたかむら)が承和六年はじめ伯耆国(まのきのくに=鳥取県)名和港を出港してまもなく海が大そう荒れ狂い身の危険を感じたため、篁は正装をして船の軸に座り熱心に普門品(ふもんびん=觀音經)を唱えていると、白髪のお翁が波上に現れて「荒波から命を守ってやるが癒瘡(天然痘=大流行し治療法がなく非常に恐れられていた)を患えば一命が危ない、われは太田姫の命である。わが像を常にまつれば、この病にかかる事はないであろう」と言ひ波間に姿を消した。そのお告げを謹み自ら翁の像を刻み、護神していた。後に山城国(京都府)の南にある一口の里に神社を築いた。江戸の開祖として知られる太田資長朝臣(後の道灌)の最愛の姫君が思い癒瘡にかかゆ絶望の中、人伝に一口稲荷神社の故事を聞き急使をつかわせ祈願。使者は新穂の一枝と幣を授かり歸ると、十直の病が癒えた資長朝臣は崇敬の念篤く城内本丸に一社建立し姫君と共に深く敬拝した。

ある時この城の鬼門を守るべしの神託があり、鬼門に移して太田姫稲荷大明神と奉拜するようになった。長祿元年(1457)のことである。

慶長八年(1603)八月、徳川家康が江戸城へ入られた後、慶長十一年の江戸城大改築の際、城内より丸の鬼門にあたる神田駿河台東側に移されこの坂を一口坂(も、あらいざか)と、後に鈴木淡路守の屋敷が出来たので盛路坂ともいう)と呼ばれた。その後代々将軍が崇拝し、修理造営は徳川家が行ったと伝えられている。

明治五年(1872)神社制度により神職司家とする。

例祭日は毎年四月十八日と定められ、後に五月第二土曜日となる。

大正十二年(1923)関東大震災で類焼、御神体のみ無事に湯島天神に避難する。

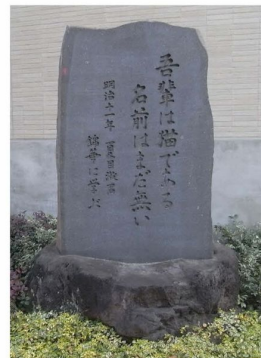
大正十四年(1925)仮社殿が落成。

昭和三年(1928)式子各位の帝進により、本社殿、神楽殿、御水舎、神輿庫、社務所、鳥居等新築される。

昭和六年(1931)御茶ノ水駅、西国駅間の総武線建設のため社地大半を収用され鉄道省より換地として、現在の地を神社敷地に指定、一切の建築物をそのまま移転して今日に至る。

(境内の標示より)

## 錦華公園と夏目漱石の碑



## 高燈籠と田安門



- 九段坂の上右手に高灯籠が見えます。
- これは明治4年に造られた灯台で 当時は品川沖や房総沖からも見えたそうです。

## 千鳥ヶ淵の桜



## 築土神社



1780年(安永9年)元飯田町の人たちによって奉納された狛犬で、年代が明らかかなものとしては千代田区内で最古となります。

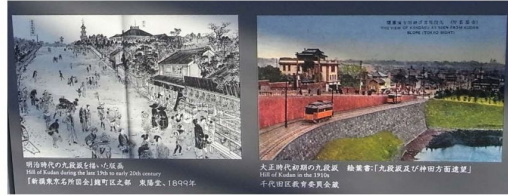
元飯田町とは1697年(元禄10年)の火災後の町地整備ののちにできた町名で、現在の富士見一丁目及び九段北一丁目付近にあります。

社伝によれば築土神社は、940年(天慶3年)に武蔵国豊島郡上平川に祀られたのち、田安、牛込門内、牛込門外の築土山と所在地を変えて、1954年(昭和29年)に現在の場所へ戻ってきました。

狛犬が奉納された1780年(安永9年)当時は、牛込門外の築土山(現在の新宿区築土八幡町2番地)に神社が所在していた時期ですが、離れた場所にあってもなお、旧所在地の元飯田町の人々が篤く信仰していた様子がうかがえます。

千代田区文化財サイトより

## 九段坂(由来)



古くは飯田坂と呼ばれていました。名前の由来は、坂に沿って御用屋敷の長屋が九つの段に沿って建っていたため、急坂であったため九つの段が窺かれていたからともいわれています。明治後期、九段坂下から市ヶ谷方面に市電を通すため、牛ヶ淵(北の丸公園に沿った堀)側の勾配を削って線路を敷設しました。

関東大震災後の帝都復興計画で坂を大幅に削り緩やかな勾配にする工事が行われ、九段坂は大正通り(現在の靖国通り)として東京の主要な幹線道路の一部となり現在に至ります。

## 甲武鉄道飯田橋駅



## 東京大神宮

